

団体名	株式会社 ヒトココチ	所在地	函館市
<p><b>団体概要</b></p>	<p>1998年、北海道教育大学函館校の卒業生を中心に、旅するバンド「ひのき屋」を結成し、音楽活動を中心に展開。2007年には音楽活動以外にも活動の幅を広げるため株式会社ヒトココチを設立。2008年から野外フェスティバル「はこだて国際民俗芸術祭」を立ち上げ、毎年その企画・制作を担ってきている。</p> <p>2014年に函館市西部地区にある「カルチャーセンター臥牛館」に拠点を設け、放課後に保育が必要な小学生のための学童クラブ「ひのてん」を開設、2016年からは市からの委託事業として運営している。</p> <p>自然と芸術との出会いをテーマに、一般的な学童クラブと較べて、より外遊びを重視した活動を行っており、2022年4月現在、臥牛館を含めて市内3カ所で学童クラブを開設している。</p>		

### 学校の長期休みを中心にした函館圏のセンターとなる学童保育所の開設

<p><b>背景</b></p>	<p>創設スタッフ自らが家庭を持つようになり、子育て環境への関心が生まれ、函館を子育てしやすい街にしたいと思うようになる。</p> <p>まず取り組んだことは、海外公演の経験を生かし、世界中から音楽・ダンスのアーティスト、大道芸人などを招いての野外フェスティバル「はこだて国際民俗芸術祭」の開催に取り組み、現在も継続している。</p> <p>音楽活動と芸術祭との相乗効果を踏まえ、函館市西部地区の自然環境と景観を活かした活動を行う学童クラブを開設した。その結果、活動内容に賛同し、遠方からでも子どもを通わせたいという保護者、通いたいという子どもが増えた。</p> <p>学童クラブの活動を行う中で、長期休みのみ子どもを預かってほしいという保護者のニーズがあることを知るようになる。両親とも仕事をしている場合、長期休みには子どもを家の中で一人にせざるを得ない。運営側にとっては長期休みのみ、子どもを預かることは、スタッフの確保や施設設備面で課題があるが、野外活動や集団の中で活動できる機会を提供したいと考えるようになった。</p> <p>一方、学童クラブで宿題などを見る中で、「学びのサポート」の必要性も感じていた。勉強を見てあげたくてもなかなか時間の余裕がないという家庭も多く、そうした家庭の悩みに応えることができないか考えるようになった。</p>
<p><b>活動内容</b></p>	<p>長期休みだけの利用が可能な学童クラブ「ひのてんQ」を2020年4月に開設。活動空間はこれまで取り組んでいた学童クラブ「ひのてん」の隣に整備した。運営費に行政からの補助はなく自主運営となる。現在17名の子どもが登録している。</p> <p>「ひのてん」「ひのてんQ」の特徴としては、外遊びが豊富なこと。規定の数倍の人数のスタッフをつけ安全を図った上で、山や海に行ったりキャンプをしたり、雪遊びなどを積極的に行っている。</p>

また、学童クラブに通う子どもたちと近隣の子もたちを対象に、放課後の学習支援の場として「みかん箱」も開設した。子ども達が、楽しく学びながら勉強の面白さに気づき、いずれは自ら学ぶようになるよう工夫している。また、季節の変化や話題などに合わせて、各教科の学びに結び付くよう教材を手作りしている。教師は社員や学童クラブのスタッフが務め、ほぼマンツーマンで指導に当たっている。現在生徒は 24 人。週 1 回 1 時間ほどで、それぞれの都合のいい曜日と時間に、1 日 5～6 人が通っている。

### 活動を実施する中での気づき・発見（成果・効果）

長期休みの学童クラブ「ひのてんQ」は、市内各所から問い合わせが来ており、需要はかなりある事が分かった。忙しい保護者に代わり、外遊びの活動時間を存分に確保していることで喜ばれている。

学習支援塾の「みかん箱」についても、子どもたちが楽しく自ら通う様子が見られ、子どもへのアンケートにも「はっとさせられる瞬間がある」「面白い」などの声が聞かれている。

### 課題、今後取り組もうとしていること（展望）

「みかん箱」では、子ども達にとって、どのような学びが必要かをスタッフで議論するようになった。「自分の頭で考える力を育てる」ことを目標にこれまでの蓄積や経験をまとめ、系統的にみかん箱流カリキュラムのようなものを作っていく。

学童クラブは、行政からの要請で新型コロナウイルスの自粛期間中も開設していたが、野外活動などを縮小せざるを得なかった。最近の子どもたちが夢中になっているオンラインゲームよりも面白いと思わせるような活動をたくさん投げかけ体験させたいというのが本来の姿勢であり、コロナが落ち着けば再び力を入れていきたい。

「ひのてんQ」「みかん箱」どちらの事業も休眠預金の助成金でスタートダッシュをすることはできたが、あと 1 年で自立し、軌道に乗せていくことが重要である。22 年 1 月に縁あって拠点となっている建物（臥牛館）を法人として取得したため、今後は他のテナントとの連携や臥牛館での新たな試みを織り交ぜ、この場所にさまざまな人が集まる取り組みを行っていきたい。



「ひのてん」「ひのてんQ」の活動は外遊びを重視。どんなに寒い日も、子どもたちは喜んで外に出かける



「みかん箱」ではカードや折り紙なども利用して楽しい学びを追求する。この日のスタッフの数は子どもと同じであった

### 活動内容に関する問い合わせ先

株式会社ヒトコチ 代表取締役 曾我直人  
電話：0138-86-6705 メール：sales@hito.co.jp